



フードドライブを通じた つながり作り

社会福祉法人加東市社会福祉協議会
地域福祉課 相談支援員 竹内 沙彩

加東市社会福祉協議会の紹介

「もったいない」を
「ありがとう」に



加東市

人口 約4万人

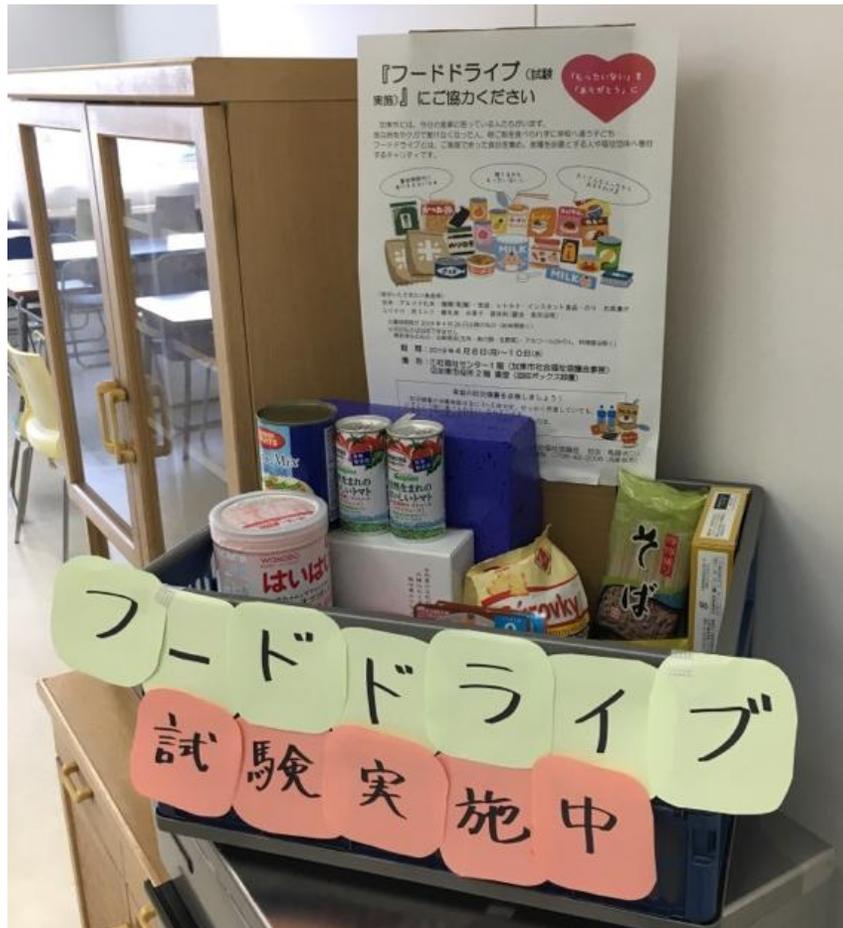
特産品 山田錦・もち麦など

加東市社会福祉協議会（社協）は、
「ささえあい みんなが安心 福祉のまち」
というテーマを掲げて活動する民間組織です。

社会福祉協議会とは、地域社会における住民主体の福祉活動の中核となり、地域福祉の向上を目的とする公共性・公益性の高い民間非営利団体です。加東市においては、加東市社会福祉協議会が行政や他の民間組織とともに様々な福祉サービスを行っています。（加東市ホームページより）

フードドライブをはじめた経緯

「もったいない」を
「ありがとう」に



平成29年

就職

加東市に食べられない人がいることに驚く
相談対応に悩む

平成30年

食料支援について知る

フードバンク関西さんと出会う
研修会でフードドライブを知る

平成31年
(令和元年)

フードドライブを始める

4月～試験実施、9月～本格始動

日頃から向き合う相談者の顔が思い浮かび、
取り組むやりがいがある

加東市社協のフードドライブ

「もったいない」を
「ありがとう」に

加東市 フードドライブ

「もったいない」を
「ありがとう」に

フードドライブとは、ご家庭で使いきれない食品を集め、支援を必要とする人や福祉団体へ配布する活動です。使い切れず食品を寄付することで、食品ロスを削減できるだけでなく、食料支援を必要とされる方に、間接的に、支援の手を差し伸べることができます。



お米（古米も可）・野菜・麺類（乾麺）・缶詰・レトルト・のり・お茶漬け・ふりかけ・インスタント食品・粉ミルク・離乳食・お菓子・調味料 など

実施日：平日 8時30分から 17時30分まで

回収場所：加東市社会福祉協議会

社支部 社福祉センター内
滝野支部 滝野福祉センター はびねす滝野内
東条支部 東条福祉センター とどろき荘内

対象食品：次のすべてを満たすもの

- 賞味期限が1か月以上残っているもの
(米、野菜、砂糖、塩は賞味期限の記載が無くてもお預かりします。)
- 未開封のもの(米、野菜は除く)
- 常温保存可能なもの ※アルコール飲料はお預かりできません。

5歳1つから
お預かりください

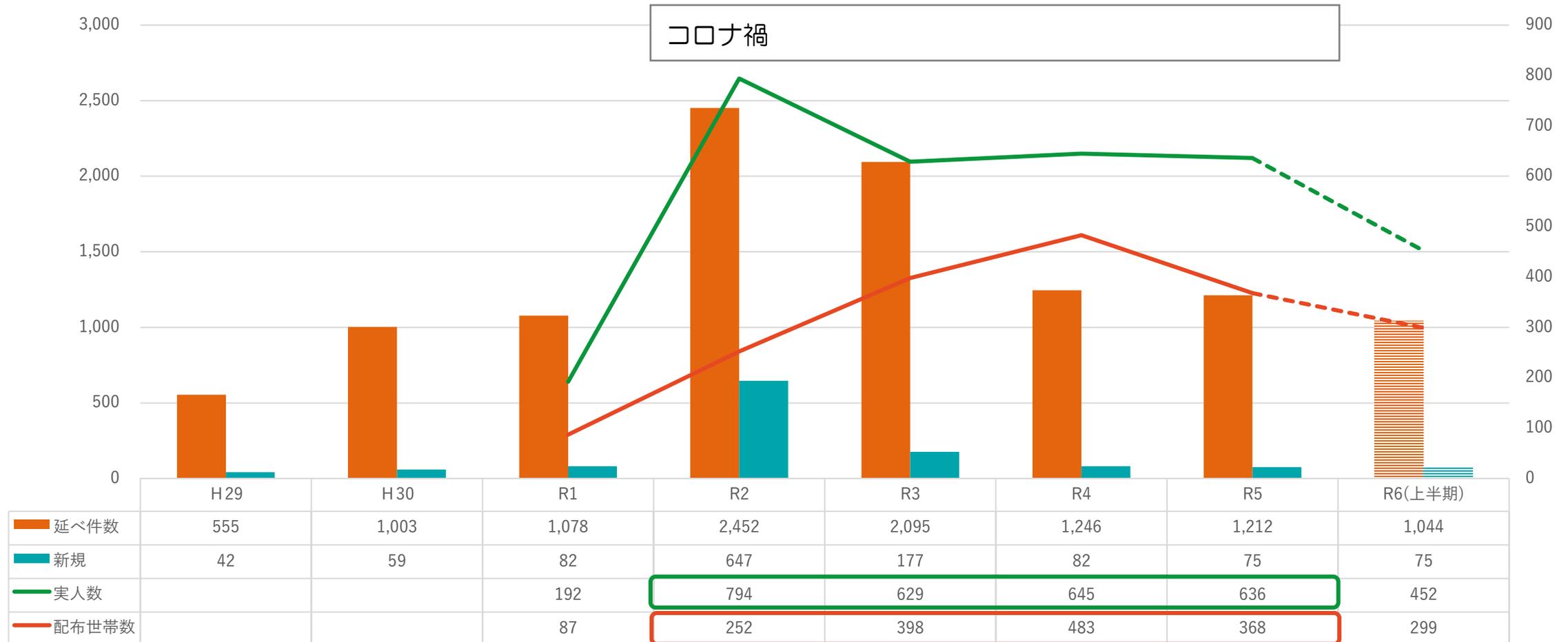


主催：加東市社会福祉協議会
お問い合わせ：0795-42-2006（社支部）
〒673-1431
兵庫県加東市社 26 番地 社福祉センター内

- 社協の窓口で、常に集めて、常に配る
- より多く集めるために、イベントを実施することもある（スーパー店頭での回収・啓発、各種団体での集中回収期間の設定など）
- 単に食品を集めて配る作業にしない
→ 「つながり」の意識
(P.7～ 食料支援と相談をセットで行うなど)

加東市社協の相談対応状況

「もったいない」を
「ありがとう」に



日々の相談の中で

「もったいない」を
「ありがとう」に



- 社協とかかわりのある世帯への窓口や訪問による支援
- 行政（子育て・高齢・生活困窮部局）や関係機関との連携
- 食べ物を渡して終わりにしない
まずは食べて元気をたくわえる、
その後、課題解決を一緒に考える

イベントを通じて

「もったいない」を
「ありがとう」に



「年越しあったか食料パック」

(生活に困窮する子育て世帯へ)



「お米の配布事業」

(生活に困窮する独居高齢者世帯へ)



フードドライブを通じたつながり①

「もったいない」を
「ありがとう」に

① SOSを発信しづらい人とのつながり

- 顔が見える関係づくり
- 慢性的な困窮世帯との「ゆるやかな」かわり、見守り

② 地域のつながり

- お互いの顔を知らなくても、相手の笑顔が思い浮かび、気持ちがあたたかくなる
- 子ども食堂との連携の強化、支援の幅の広がり



フードドライブを通じたつながり②

「もったいない」を
「ありがとう」に

③民間企業とのつながり

- 事業所の防災備蓄の寄付
- 事業所内でのフードドライブ
- スーパー店頭でのフードドライブ

④学生とのつながり

- 実体験を通じた福祉の担い手の育成

⑤実務者・仲間とのつながり

- 社会を動かす大きな力へ



マックスバリュ店頭でのフードドライブの様子

聞こえてきた声（支援を受けた方から）



「もったいない」を
「ありがとう」に

- 良かったー！これで子どもにちゃんと食べさせられる。（8歳男児の母）
- 主治医にお米だけではなく、肉魚も食べなさいと言われていたから缶詰がとても助かった（83歳女性）
- 子どもの部活に持っていくおにぎりをしてあげられる！（高1女児の母）
- 毎年、年を越せるか不安だった。子どももずっと家にいてお金がかかる。だからってクリスマスプレゼントをあげない訳にもいかないし…だから年越しあったか食料パックがあって助かる。（小4・年中女児の母）
- ペットボトルの水、仕事に持って行く。熱中症に気を付けて頑張ります。（73歳女性）
- ノートの「ありがとう」の文字（精神障害の母親から隠れるようにこっそりと見せてくれた。年長女児）

聞こえてきた声（寄付した方、活動者から）



「もったいない」を
「ありがとう」に

- 自分たちの住む地域に、食べ物に困る人がいるなんて思っていなかった。都会のホームレスの人達みたいなの、遠い場所の話だと思っていた。

（ボランティアに参加した学生の声）

- スーパー店頭でのフードドライブに参加してみて、ニュースでは物価高騰と言っているのに、これだけたくさんの食品を寄付してくれる人たちがいるって、自分の地元の人たちは優しいんだな、やっぱり良いまちなんだなと思った。
- チラシを受け取ってもらえなくて、初めて大人に冷たくされた。それでも、この活動をすることに意味があると他のボランティアさんに言われて勇気づけられた。

さいごに

「もったいない」を
「ありがとう」に



フードドライブは、
みんなで取り組むささえあい
「ひとりじゃない」のメッセージ
つながりの広がり = まちづくり